

## 2019～20年度 学校評価と目標、及び振り返り

### ・高等部：

■①自ら考え、自ら感じ、自らの意志で行動できる人、どんな時代でも自分らしく歩んでいける「生きる力」を持った人を育てます。

- (1) 初中等部で育まれてきた感性を信頼し、感情に流されない思考力を持ち、自らの考えを自らの意志で実現できる人を育てる。
- (2) 現在・過去・未来の社会の興味関心を持ち、自律して学び続ける力を育てる。
- (3) 教職員、保護者、地域の方々が調和的・協力的に活動できる場を作る。
- (4) 生徒の多様性を尊重し、一人一人の個性を生かすために、教師は教育芸術の実践を目指す。

### ・初・中等部：

■①12年間一貫教育を行い、児童生徒が安心して学べる大きな家族のような学校

(1) 12年間を通して深い人間愛を培う。

- ①全教員が全児童・生徒の顔と名前、及び学校での様子を認知して日々接し、一人一人の個性を尊重し伸ばす。
- ②12年間の各エポック科目、専科授業を通して自然で温かさを伴う道徳教育・性教育の在り方を意識し、教育する。
- ③12年間の一貫教育を更に筋の通った骨太のものにするために、教員が互いに学年・校種を超えた繋がりを強くし、互いの教育内容を熟知する。

(2) もっと美しく、もっと感動的な教育芸術を！

- ①シュタイナー教育においては、詩・歌・楽器演奏・絵を描く等の芸術を多用するが、それらを含めて授業が有機的なものとなり、子どもたちに学びの働きかけが来ているかどうかを教師たちが互いに研究し合い、切磋琢磨し合う。

(3) 日本の伝統文化・アジアの感性に根付いた学びを通して、世界へ向かう！

- ①日本におけるシュタイナー教育を鑑み、アジアや日本の伝統文化を意識的に体験する教育を目指し、それらも土台のひとつとして自己啓発していける人間を育てる。

※学園は「学校評価目標」は「単年」ではなく、2～3年かけて取り組む目標として掲げています。

## 2019年度教師会評価（目標以外の評価を含む）

### 1) 学習内容、学習活動について

初 等 部・中 等 部	高 等 部	全 体
<p><b>■日本の伝統文化に基づいた教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 今までの取り組みの継続として今年度も、米作り、紙漉き、鍛冶屋体験、木こり体験、炭焼き体験、奈良歴史旅行、狂言の鑑賞と発表、琵琶法師演奏鑑賞、お茶、書道、ひな祭り、お正月遊び、水墨画、等を行っている。加えて昨年度新しく試みたものとして、版画（浮世絵の学びより）、生け花、三味線演奏会鑑賞及び段ボール三味線作り体験と演奏、などを試みた。</li> <li>• 毎年どれも子どもたちにとってかけがえのない学びと体験になっており、今後も続けていきたい。</li> <li>• 過去に試みた、醤油作り、味噌作り、炭焼きなども担当教員が変わることにより継続できていない部分がある。内容と準備を見直し、毎年必修の学びにするかどうか再検討したい。</li> </ul> <p><b>【3年米作り】</b> 3年生の校外学習で田んぼの授業が1年間を通</p>	<p><b>■自己表現が豊かに出来る人間…プレゼンテーション能力の強化について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 高等部では様々な発表の機会があるが、例えば理想的な卒プロ発表を想定し、そこから逆算して、必要要素を学習の中に取り入れるカリキュラム作成をもっと深く考えたい。物事に深く興味を持つ力、ディベート、思考力、推察力、観察力、実行力、読書力、PC力のUP、幅広い興味、交渉力、説得力、など特例校のカリキュラム申請に合わせて見直しをしていきたい。</li> </ul> <p><b>【卒業プロジェクト】</b> 年々は発表の仕方は洗練され、power pointを用いたり人前でも臆することなく発表できる生徒が増えている。半面、内容的には深みや個人の在り方が昔に比べて物足りない面も多くみられるようになってきた。ある意味、PCやスマホによる情報収集の弊害とも考えられる。 卒業プロジェクトだけを見ても、どこに到達させ</p>	<p><b>【カリキュラム研修】</b> 1～12年授業内容について個々の教師の最新の研究成果と授業内容を互いに共有する時間が以前より減っている。新たに加わった教員、非常勤もいるので、児童・生徒の成長の中での学びの繋がりについて再度認識することにより、それぞれのシュタイナー教育としての授業に生かせるのではないかと。</p> <p><b>【台風・自然災害による自宅学習・休校】</b> 台風による自宅学習日が多かったが、そのための補修等の日数確保、遅れをどのように取り戻すかを考える必要あり。年間スケジュールと授業の進み全体を考慮して確認しながら進めることが必要。専任教員の場合は時間のやりくりが比較的調整しやすいが、特に非常勤の先生方の授業の時数には配慮が必要と思う。</p>

<p>して、苗作りから収穫まで、とても充実していて日本の風土にあった教育の充実を感じた。現代式の米作りだけではなく、昔ながらの手作業の体験を多くすることも豊かな経験になっている。</p> <p><b>【お正月遊び】</b> 今は遊ぶ機会が減ってきた日本の伝統的なお正月遊びを毎年行い親しみ、後世へ引き継いでいる</p> <p><b>【中国語】</b> アジアの外国語として中国語の学びが始まり、初等部の子どもたちにも段々馴染みが出てきたのを感じる。単に会話や文字にとどまらず、文化面に接することができるのも大きい。</p> <p><b>【6年歴史旅行】</b> 奈良歴史旅行は実際にその土地の風土や歴史的建築物に触れ、教室での学びの内容を実際に体感できる良い機会となっている。お寺で宿泊する機会を利用して写経や練習してきた読経など、普段できない経験ができるのが良い。また、すべての食事の用意や片付け、掃除など共同生</p>	<p>るべきなのか、そのために4年間でどのように教育をしていくべきなのかを全体でも把握して、次の授業計画に繋げていきたい。</p> <p><b>【専門家たちの協力による体験授業】</b> 9年生農業実習、10年生職業実習、11年生航海実習、福祉実習は他校の実習と比べても学外の専門家に指導を仰ぎ、体験を深めるとも良い学びになっている。また、在学中ではあるが広く社会の中に飛び込み、実情を見て考え、学ぶ良い機会になっている。これらはこれからのSDGsの学びとして更に定着して行ってほしい。</p> <p>しかし、12年生の卒業プロジェクトなどで高校生が自ら積極的に外へ出て行く力はまだまだ充分とは言えない。実習での体験と学びは深まりを見せるが、そこから更に先を見つめ、祝祭や学園祭の企画など今以上に自ら企画立案する機会を与え、それらが実現していく力を育てていきたい。</p>	
---	--	--

活もクラスの団結を高められた素晴らしい体験になった。

#### 【7年歴史】

室町時代の文化の中に、現在に繋がる能や狂言・茶道などの日本独自の伝統的なものが多くみられる。能や狂言の発表には子どもたちにとって素晴らしい芸術体験となった。また、重要文化財の石井家住宅は見学と同時に実際に茶道体験ができ、地域の方から直接伝統文化を学び、本物に触れることが出来た。

#### 【各学年劇の取り組みについて】

どのクラスも毎年劇の発表をするが、互いのスケジュールが詰まった中、調整を行い、それぞれのクラスの劇を互いに観る機会はクラスの様子、それぞれの子どもの成長段階が劇の発表を通して見れて良い。古代エジプト劇や北欧神話劇などに加えて、日本古来の古事記や狂言を毎年扱っているのも学びとして定着してきた。どれも子どもの表現力、人間関係、衣装や大道具・小道具作り、音楽など総合的な学びになっている。

教師ばかりでなく子どもたちも学年が違う兄妹

や弟妹の姿を認識し、より共感を強めているのがわかる。

#### 【教師の授業見学】

- 以前に比べて、全体が授業見学を行う絶対数は減った。しかしながら、行われた授業見学の中で担任が専科教員の授業を見学して教員間の子どもへの接し方の違いが、子どものまなびの姿勢に混乱を生じていることが分かった。結果、同じクラスを教える教員間に授業を行う上での「同じルール」を設けて接することで多くの問題が解決された。
- 授業見学後の振り返りの場を設けることで、子どもの特徴や学びの長所・短所などを確認・共有することで、それぞれの授業の質が大幅に上がった。

#### 【授業内容引継ぎ】

どの学年もそうだが、鍛冶屋体験、紙漉きなど行事の多い学年の全体の申し送りや授業の引継ぎが出来ていて、効率よく校外学習を計画することができた。他学年も同様、更に効率的で、漏れのない引継ぎをシステムとして目指したい。

### 【6年生オリンピック】

近隣のシュタイナー学校三校合同で毎年行っているオリンピック競技会で他校との交流が深められており、子どもたちも交友関係を広げられて嬉しそうだ。勿論、それぞれの学校は小規模校の良さを十分生かした教育を行ってはいるが、このような機会を利用して普段持つことのできない大規模校の持つ長所を子どもたちに与えることができると思われる。

### 【補強体制】

・他学年で問題があった子どもたちを教師会全体で支えていく体制が取れ、支援チーム(学びの難しさの原因を分析し、医者や教員、治療教育家など様々な専門家が協力して教育的対応をするチーム)とも連携しながら進めていくことが出来て良かった。

また集中的に子どもの描写をすることで、子どものありようを教師間で共有できたこともその後の改善に大きな要素となった。

- ① 子どもへのきめ細やかな対応ができた。
- ② 授業内容の振り返りと充実に向けての改善策の話し合いが出来た。

## 2) 子どもたちの状態、生活面について

初 等 部・中 等 部	高 等 部	全 体
<p><b>【2019年度 初等部高学年・中等部の活躍】</b>…</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将棋大会（7年生男女3人が文部科学大臣杯中学の部にシュタイナー学園の名で出場、神奈川県代表選出Dリーグ2位、優勝本命校を予選で破る）、かるた部の県大会入賞。</li> <li>8年女子は空手でヴェニス選手権に出場。7年生男子の一人はアジア・オセアニア・フライング・ディスク大会&amp;マスターズアルティメット大会でフィリピンへ。最年少でMVP(一番頑張った人)の賞を受ける。</li> <li>その他、今年は駅伝が中止になったが、女子5人が味の素スタジアムで10km(合計)完走し、大奮闘だった。その他、国立能楽堂での短期コースに数名の中等部女子が参加したり、積極的に外とのつながりを作る子が多かった。</li> </ul> <p><b>【7・8年生の様子】</b></p> <p>思春期の7・8年生でも酷く荒れることなく落ち着いている。低学年が授業をしている際の配慮等は課題があるが、下の子どもたちをよくかわいがり、1～8年生までの縦関係のまとまりも感じられる。</p>	<p><b>【生徒会活動の充実】</b></p> <p>生徒会会則の決定、部活予算の申請など、生徒会の型が出来始めているのは大きな進歩がみられる。一方で、一部の推進者だけに任せる雰囲気や、声の大きい生徒がどんどん進めてしまう傾向もみられる。全体の意識をどう高めていくかが課題である。</p> <p><b>【部活活動状況】</b></p> <p>高等部の生徒がとても伸びやかに過ごしている。部活動やサークルなど自分がしたいこと、要望が実現できていることが子どもたちに力を与えていると思う。</p> <p><b>【地元との協力・繋がり】</b></p> <p>地元のお祭りに高等部が参加し、交流することで本人たちも地域での在り方を意識することで、地元にも学園の存在感をアピールできた。</p> <p><b>【各行事への高校生の係り】</b></p> <p>近年、祝祭や運動会、学際などに高校生が企画</p>	<p><b>【ボランティア】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地元の台風被害で休校になったときに、地域のボランティア活動に参加して活躍した生徒が何人かおり、地元の人に感謝された。</li> <li>ライヤ・グループは地元の老人ホームを訪問して演奏を披露し、感謝されている。</li> </ul> <p><b>【性教育】</b></p> <p>性教育プログラムについて、学年のカリキュラムに合わせて目標を定め、取り組んでいく方向性があり、子どもの成長に合わせての多様な対応の準備の確認ができた。内容は学内会後に保護者向けに発表されたが、保護者からは理解を得られつつも、更なる取り組みを要望される声も少なくなかった。学校でできること、家庭で進めてほしいことを更に精査し、協力体制を作っていきたい。</p>

<p><b>【通学支援・学童】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学童、通学支援など学校の新たな支援体制が設けられることで、母子家庭や共働き家庭で小さい子を抱えて働く保護者の助けとなった。</li> </ul>	<p>も含めて関わる機会が増えた。下級生の扱いやプログラムの進行なども毎年慣れてきて遅しくなっているのを感じる。</p>	
---	--	--

### 3) 組織面（教員の働く状況、組織としての状況、役割分担、事務局との関係など）

初 等 部・中 等 部	高 等 部	全 体
<p><b>【雰囲気】</b></p> <p>教員同士が共働するメンバーとしての明るい雰囲気、支え合い、助け合おうという雰囲気がさらに増したように感じる。とても助けられた。</p>	<p><b>【働き方改革】</b></p> <p>働く時間がどうしても長くなってしまったので、残業時間を意識するようになったのはとても良かった。かと言って、仕事量が減るわけではないので、四六時中仕事している事実は変わらない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■働き方改革・運営体制の改革 <ul style="list-style-type: none"> <li>社会の流れに迎合するのではなく、人智学的視点に立った働き方の理想を追求し、具現化していきたい。</li> </ul> </li> <li>■より効率的な組織な在り方と働き方 <ul style="list-style-type: none"> <li>規定の改正に伴い、より機能的で組織的な運営と働き方を目指していきたい。</li> </ul> </li> </ul>